

ゴルフマナー（最低知っておきたい）

1. スタート時間を厳守する。
2. スマートフォンをマナーモードにする。
3. 使用ボールの銘柄や識別マークを申告する。（打ち直し時も。）
4. 人に向かって素振りをしない。
5. 少なくとも同伴者・前の組が打つときは、静かにする。
6. 同伴者のボールの行方を確認する。
7. 基本遠い人から打つが、速やかなプレーを試みる。
8. 打つ前に安全の確認をし「打ちます！」と声をかける。
9. コースの保護をする。
 - コースを傷める素振りをしない。
 - 自分のディボット跡にできれば砂を入れる。
 - バンカーは使用後ならしておく。
 - グリーン上のボールマークは直す。
10. グリーン周りでは、同伴者のラインを踏まない。
11. スコアーは終了したグリーン周りで記入しない。
12. ゴルフ保険に加入しておく。（1日保険もある。）



最低知っておきたいゴルフルール (1)

◆ ローカルルール (コースやパーティが独自に決める規則)

- 6インチ ホールに近づかずプレース
- 1ペナ杭
- 指定ドロップ区域
- プレーイング4
- 1グリップOK

◆ 罰打とはペナルティ。

- 1罰打は1ペナ。
- 加算される数字を表す。
- 打てる場所に戻り、適切な処置をして、プレーを再開できる。

最低知っておきたいゴルフルール (2)

◆ ボールドロップについて (以下を守らないと2罰打となる。)

- ① 救済の基点からホールに近づかないように1クラブレンジス内が救済エリアとなる。(つまり半円となる。)
- ② ドロップは膝以上の高さから行う。
- ③ 救済エリアからボールが転がり出た場合は、もう一度行い、再び出た場合は、ボールの落下地点にプレイスする。

◆ 救済の基点（ニアレストポイント）とは

人工の障害に身体やボールが接しているとき、またはスイングした場合それら障害物にあたる場合、その障害から離れてアドレスしたときのボールの位置で、救済を受ける前のボールの位置に一番近いポイントをいう。

最低知っておきたいゴルフルール (3)

◆ OBの時

1. 打った地点からプラス1打のペナルティ
2. ティーグラウンドではリティーする
3. それ以外は1クラブレンジス以内にボールドロップする。
4. ボール銘柄とナンバーを申告するとよい。

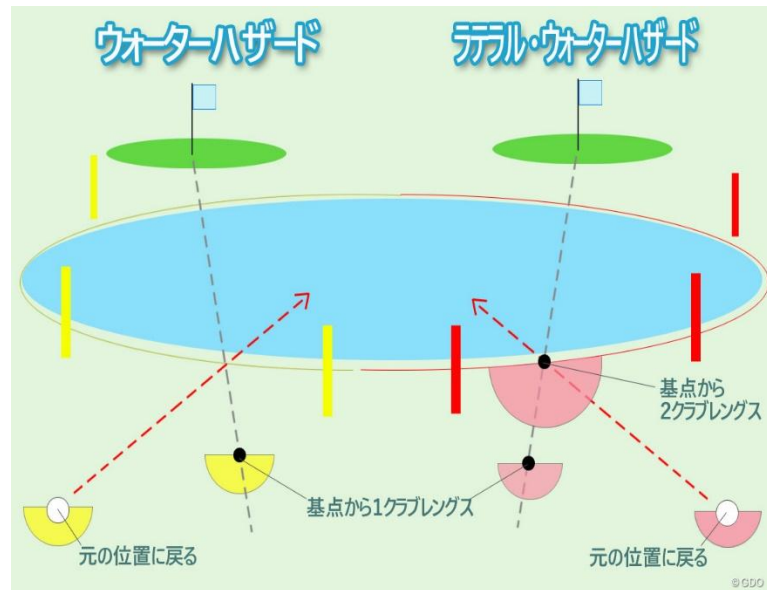
◆ 注意

1. バンカーからのOBの時は、ドロップ出なく1クラブレンジス以内にプレーする。
2. OBの白杭の内側（コース側）がOBラインとなる。
3. OB杭はコース外の障害物ですから、スイングの邪魔になっても抜くことはできない。ちなみにハザードの赤杭やヤーデージの杭などは、コース内の人工の障害物なので、邪魔であれば抜くことはできる。

最低知っておきたいゴルフルール (4)

◆ ウォーターハザードの時

1. そのままノーペナで打つことができる。
ソールしてもOK。
2. 打った地点からプラス1打のペナルティで、1クラブレンジ以内にボールドロップするか、ティーグラウンドではリティーをして打ち直すことができる。
3. ハザードを横切った場所からプラス1打のペナルティで、ラテラルハザードは2クラブレンジ、それ以外はニアレストポイントから1クラブレンジ以内にボールドロップする。（この場合ホールとハザードを横切ったポイントを直線で結んだ後方に好きなだけ下がることもできる。）



GDOホームページより

覚えておきたい身近な新ルール (1)

2019年からゴルフの新ルールがスタートしました。

◆ 身近な新ルール

- 遠球先打にこだわらない
- 旗竿を立てたままパット、カップインしてもよい
- 2度打ちOK
- バンカーやペナルティエリアでの小石、枯枝を取り除ける
- ドロップは膝以上から
- 距離計測器が使える

◆ こんな改正もある

- ボールを探しているときボールを蹴っても無罰
- ボールを探す時間は3分（以前は5分）
- 偶然の自打球（バッグ・カートなど携帯品含む）は無罰
- 赤杭内でもソールOK（バンカーはもちろん駄目）
- ティーイングエリア内のチョロは無罰でリティーできる
- 2罰打でバンカーの外へ救済を受けられる